

第1条 原則

ボッチャの競技を行う際の心構えは、敵・味方に関係なくよいプレーは賞賛し、ミスを責めるような言動は、選手・観客・指導者全てにおいて控えること。

第2条 競技場

第1項 競技場の条件

競技場の表面は、平坦でなめらかであること。

第2項 コート

- (1) コートの寸法は、12.5m×6m とする。
- (2) コートのラインテープは、外側のライン、投球ライン、Vラインには4cm幅のテープを使用し、投球エリアを区切るラインとクロス、ターゲットボックスは2cm幅を利用する。
- (3) ターゲットボックスの内寸は35cm×35cmとする。

第3条 用具

第1項 ボッチャボール

- (1) ボッチャボールは、赤色ボール6個、青色ボール6個、白色のジャックボール1個で構成される。ボッチャボールの大きさの基準は、以下の通りとなる。
重量：275g±12g、周長：270mm±8mm
- (2) 大きさ、重さの基準に準じていれば、競技に個人のボールを使用することができる。また、大会主催者が用意するボールを使用することもできる。

第2項 投球補助具(ランプ)

- (1) 投球補助具(ランプ)は、付属品、延長部、基本部分を含めた最大最長の状態にして横に倒したときに2.5m×1mのエリア内に収まるような寸法でなければならない。
- (2) 投球補助具(ランプ)は、ボールを投げることのできない選手が、勾配を用いてボールをコートに送ることを目的としたものであり、ボールを加速・減速させる機器や、照準器をつけてはならない。
- (3) 投球補助具(ランプ)は、RO(ランプオペレーター)を要して投球する区分の選手が使用する用具で、投球する際にはボールに触れたり、押ししたりして自分自身でモーションをおこななければならない。そのため投球に機械的な補助を設ける機器(スイッチで自動投球する機器、ジョイスティックでランプの方向を決める機器等)をつけてはならない。
- (4) 大会では、投球補助具(ランプ)は上記(1)～(3)の条件をもとに、選手が準備したものを使用する。

第3項 その他の用具

選手が競技を行う際に使用する用具は、あくまで自分の力で投球するための器具である。そのためグローブや棒などが大会の使用に適しているかどうかについては、器具を検査し、適正であることを大会主催者から了解されていること。

第4条 選手

第1項 大会出場選手

主催者側に事前エントリーした小学生以上の滋賀県在住者に限る。

※本大会ではインクルーシブの理念を大切に、障がいの有無に関わらずエントリーできる。

第2項 競技アシスタント(SA/RO)

- (1)車椅子使用者のうち、移動したり、方向を変えたりすることが機能的に困難な者及び投球補助具(ランプ)使用者について、選手1名につき1名の競技アシスタント(SA/RO)を認める。
- (2)競技アシスタントは移動、方向を変える、投球に対して補助する者であって、選手の意思を離れて競技に介入することは許されない。競技アシスタントが選手の意思を離れて競技に介入していると審判及び大会主催者が判断する場合は、反則行為として罰則を受ける。(罰則の条項参照)

第5条 試合方法

試合は、団体戦で行われる。また、試合は全て男女、障がいの区別なく行われる。

第1項 チームの構成

試合は、3人一組で構成されたチームにて行われる。構成されるチームには、試合中いかなる場面でも、1名はキャプテンとして腕章を装着して試合を行う。

第2項 控え選手

各チームは、試合に出場する3人一組に加え、控え選手を1名用意できる。控え選手はエンドとエンドの間に交替できる。

第6条 競技手順

競技は以下のような手順で進められる。

(1)競技の準備

競技を開始するにあたって、審判の指示のもとキャプテンは、最初の段階で競技する選手と控え選手を申告する。次にコイントスにて投球順序(使用するボールの色)を決定する。

(2)ボールの準備

選手は、どちらのチームも自分たちが使用するボールを、控え選手も含めて一人2つずつ持って試合に臨むことができる。また、ジャックボールは各チームに1つだけ用意することができる。

これより多いボールをコート内に持ち込んではいならない。

(3)投球位置への配置

選手は競技を始める際に審判に誘導を受けながら投球位置に配置される。投球位置は、コートに向かって左から、赤、青、赤、青、赤、青の順で投球ボックスに配置される。

なお、控え選手は、投球ボックスから遠い位置のコート外に配置される。

(4)投球練習

試合を始める前に、各チーム6球の自ボールと1球のジャックボールを2分以内で投球練習できる。ジャックボールはチームの誰が投げてもよい。自ボール6球と、1球のジャックボールを全て投げ切るか、2分が経過したとき、投球練習は終了される。

(5)試合の宣告

審判は、赤、青両チームの投球位置の配置を確認後に、互いのあいさつを促す。次にジャックボールを赤チームのキャプテンに渡し、コート外に出て「ジャックプリーズ」と試合開始を宣告する。

(6)ジャックボールの投球

赤チームのキャプテンは、審判が試合開始を宣告した後に、ジャックボールをコート内の任意の箇所に投球する。

投球したジャックボールがサイドラインやエンドラインを超えた(ライン上に接地した場合も超えたとする)場合や、Vラインを超えない(Vライン上に接地した場合も超えないとする)場合はアウトボールとなり、ジャックボールの投球権は相手チームに移る。

(7)第1球の投球

ジャックボールが首尾よくコート内の任意の箇所に投球できた場合、ジャックボールを投球した選手がそのまま色ボールの第1球を投球する。このとき、第1球目がサイドラインやエンドラインを超えてしまった(ライン上に接地した場合も超えたとする)場合は、同じチームの任意の選手が色ボールをコート内に投球できるまで投球する。

(8)第2球目の投球

ジャックボールを投げたチームが色ボールの第1球目を投球できたら、相手チームの任意の選手が相手ボールの第1球目を投球する。このとき、相手チームの第1球目がサイドラインやエンドラインを超えてしまった(ライン上に接地した場合も超えたとする)場合は、同じチームの任意の選手が色ボールをコート内に投球できるまで投球する。

(9)第3球目以降の投球

両チームの色ボールが投球されたら、ジャックボールに対してより遠い位置に配置されたボールを投球したチームが投球する。チーム内でどの選手が投球するかを相談して決めてよい。

ジャックボールに対しての遠近の配置が入れ替わったとき、投球するチームも入れ替わる。

これは、投球すべき手持ちのボールが全て投げ終わるまで行われる。

(10)各チームの持ち時間

ジャックボールを含めた各チームの投球時間の合計は、1エンドあたりそれぞれ5分ずつとする。

なお、罰則にかかる追加の投球については、別に計時する。

(11)エンドの終了、点数の計算

両チームの投球すべき手持ちのボールが全て投げ終わったとき、審判は試合の終了を宣告し、第一エンドの獲得点数の計算を行う。点数の計算方法は以下の通りとなる。

- ① ジャックボールに一番近い色ボールを投球したチームが勝者チームとなり、得点権を得る。
- ② ジャックボールにもっとも近い敗者チームの色ボールを基準とし、そのボールとジャックボールの間にある勝者チームのボールが、全て得点対象となる。
- ③ ジャックボールに一番近い色ボールが両チームとも同じ距離に配置されている場合、チームに関わらず、そのボールは全て得点の対象となる

審判の得点計算が終わったら、選手と観客に試合の点数が宣言される。点数が宣言され、審判に促された後、投球補助具(ランプ)を使用する選手の RO はコート内を見ることができる。

試合結果に対し、競技アシスタント(SA/RO)は介入できない。

(12)エンドとエンドの間

第1エンドから第2エンドに移る間に、ボールは選手の手元に開始時と同じように戻される。

このとき、両チームの選手は必要に応じて控え選手と交替できる。

キャプテンと代理キャプテンが入れ替わる場合のスローイングボックス位置は同一とする。

エンドとエンドの間で、選手は各自必要に応じて水分補給できるが、審判に次エンドの準備を促されたら、速やかに試合準備を完了しなければならない。

また、試合の準備に入ってから、投球補助具(ランプ)を使用する選手の RO がコート内を見たり、選手の指示がない状態で補助具(ランプ)の方向を決めて次のエンドを迎えてはならない。

(13)次エンドの実施

ボールが各選手の手元に戻ったのちに行われる第2エンドでは、ジャックボールを青チームのキャプテンに手渡し、以後は第1エンドと同じ手順で行われる。

(14)勝敗

予選競技は、2エンドマッチで行われ、2エンド終了時の総得点の高いチームが勝者となる。

決勝・3位決定戦は4エンドマッチで行われ、4エンド終了時の総得点の高いチームが勝者となる。

(15)同点時の対応(タイブレイク)

最終エンドが終了した結果、総得点が同点になった場合は、ファイナルショット制度によるタイブレイクエンドを行う。

審判によりクロスに配置されたジャックボールに向かって、両キャプテン(または代理キャプテン)が1球ずつ投球してジャックボールにより近いボールを投球した方を勝者チームとする。

この場合の投球順序は、タイブレイクエンド開始前にコイントスで決められ、先に投球するチームのジャックボールが使用される。

ファイナルショットは、その試合の最終エンドで競技していたキャプテン(または代理キャプテン)が投球する。

(16)競技の終了

競技が全て終了し勝敗が決したとき、審判は選手に勝敗と得点の確認を図り、承諾サインを得る。

審判が承諾サインを得たのち、選手はコートから退出する。

第7条 違反行為

以下の行為については、違反行為として罰則を受ける。

(1)ラインを踏んだり、越えたりしながら投球する。

⇒投球したボールは無効になり、アウトボールとする。

罰則としてすべてのボール投球後に1球のペナルティスローを行う。

(2)審判の指示がある前に投球する。または審判の指示のないチームが投球する。

⇒投球したボールは無効になり、アウトボールとする。

(3)投球補助具(ランプ)を使用する選手のROが、試合継続中にコートを見たり、競技に介入したりする所作を審判が認めたとき。

⇒投球場面…投球したボールは無効になり、アウトボールとする。

罰則としてすべてのボール投球後に1球のペナルティスローを行う。

⇒投球場面以外…罰則としてすべてのボール投球後に1球のペナルティスローを行う。

第8条 その他

競技を行う上で、この規則にない状況があった場合、全てその大会主催者の判断が尊重される。

また、大会で取られた措置は記録され、以後のボッチャ競技の充実、発展のため、申し送られる。

以上